

パートナーシップNEWS



第39号 平成18年9月 発行:パートナーシップ推進課



パートナーシップ最前線!

= 道保川の事例報告 =

コラボレーションによる自然再生

道保川の多自然型川づくり

道保川は、道保川公園に源を発し、相模原段丘の崖線下からの湧水を集め連続した斜面緑地に沿って相模川に流れ込む、延長3.7kmの自然環境豊かな河川です。しかし、近年の都市化による開発とともにコンクリート護岸や暗渠などの構造物が増え、都市河川のように変貌し始めました。そこで、治水安全度の向上と水辺空間の復元・活用を図るため平成12年度から「ふるさとの川整備事業」により工事を始めました。

工事は、本来の道保川が持つ環境特性を活かし、生物の良好な生息・成育における自生環境の復元と創出を図る「多自然型川づくり」により施工しております。



「道保川を愛する会」の発足

平成14年度からの工事期間中、説明会や打合せの機会をとらえ、道保川の環境や活用などの意見交換を2年間にわたり重ね、地元有志より「道保川を大切に守り、子や孫の遊ぶ憩いの場として残そう」との声あがり、『道保川を愛する会』が発足しました。



共に語らい
輪になり
汗を流そう!



“子や孫の遊ぶ憩いの場として…”

守り育てていきます”

平成16年4月、『道保川を愛する会』と『市』により「街美化アダプト制度」の合意を締結し、改修直後の護岸覆土部などから生える外来植物(主にオオブタクサやセイタカアワダチソウ)の除草を主な環境美化活動として毎月第2・4土曜日に取組んできました。

現在では、改修延長も伸び、平成18年4月に新規団体が『道保川を愛する会』の仲間として参入し、総勢110名の方々に継続的に取組んでおり、在来植物のセリ、ミゾソバ、マコモ、ヨモギなどが自力で再生しております。また、年間イベントとして4月には、総会の後席に道保川で育ったヨモギの草団子やセリのお浸しを賞味し、8月は子供会共催の川遊び、野草の天婦羅と流しソーメンを楽しみ、12月は老人会を招待した芋煮会を催し地域のコミュニティーを深めております。さらに、地元小学校の川を題材とした総合学習で講師を務めるなど、道保川において市と地域住民とのコラボレーションが実現し、自然再生が着実に前進しております。今後はホタルの乱舞を夢に、皆さん奔走し、この活動を心より楽しんでおられます。



【今回のNEWSは河川整備課の岩本さんに作成していただきました】